

自衛隊海外派兵に抗議するわだつみ会声明

## 「それでも行つてはならない」

日本戦没学生記念会(わだつみ会)

### 1 ツ連崩壊後の「世界秩序」とは

人が人を殺すことを命ずる国家の行為が戦争である。人類の歴史とともに古い戦争は、「自衛 正義 平和のため」と正当化されてきた。美しい名目で、国家という強者、つまり国家の指導者層が個人の生命を奪い、また奪わせてきたのだ。

米ソ間の「冷たい戦争」は終わっても、世界平和がよみがえるどころか、「熱い戦争」が次々と起こるようになった。旧ソ連諸民族間の、また旧ユーゴスラビア内諸民族の血で血を洗う戦争などのうち、もっとも端的な例が湾岸戦争である。これは一国にたいする大国連合軍の有無を言わさぬ「制裁」だったが、他の地域紛争に対しても「国際的な調停 介入」が進行もしくは計画中である。

変わったのは名目だけで、国連安保理事会の決議を盾に新世界秩序 平和維持のため」と謳われる。何のことはない。実態は大国が国連のイニシアチフをとり、紛争をかえって拡大し、調停 平和維持 制裁」といつ名の戦争を開始しているのだ。だれの利益のためにか？ 強国の指導者たちの思い上がりではないのか？ 引き換えに、強国に属する兵士はもちろん、調停 制裁「される国々の兵士 民衆の犠牲は、戦争テクノロジの開発とともに、いよいよ悲惨となっている。地球環境の悪化も加速されていく。

### 2 平和維持といつ名の戦争へ

この国際社会の動きを日本に照らしてみると、廃案とされた「国連平和協力法案」、莫大な戦費提供による湾岸戦争への参戦、「PKO法」の「押し成立」、そしてカンボジアへの自衛隊派兵の流れに見事に符合する。

日本は戦後の1946年、「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して」、「戦力」はむろん「戦争と武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する」と決意した。にもかかわらず、今や一転、軍

事大国の一員として「国連による平和維持」といつまことに美しい名のもとに、軍事小国内、あるいは軍事小国間の紛争に「過剰介入」する道を開いた。憲法を踏みにじったこの暴挙自体が戦闘行為の挑発となり、古来繰り返されてきたとおり、指導層の利益のための戦争につながる。

だが、アジアのなかの日本の地位を考えると、単なる繰り返しとはとても言えない。1910年の「日韓併合」以来、とりわけ「アジア太平洋戦争」のあいだ、日本軍がこの地域の民衆に与えた犠牲はとつてい筆舌につくしがたい。フランス植民地下にあったカンボジアもまた、日本軍が侵略した国の一つである。だからこそ、指導者同士のレベルで天皇の「東南アジア歴訪・訪中」がつつがなく行われようと、アジア民衆のあいだには、ビジネスマン 観光客を問わず日本人と、日本人が背負っている日本に対する憎しみの感情が黒々とよどんでいる。折あらず、この感情が爆発するであろうことは、戦後半世紀近く経った今も、「従軍慰安婦」問題はしめ被害者や遺族から戦後補償の要求が続々突きつけられている現実から明らかである。自衛隊はまさに日本の軍隊であり、軍隊の海外派兵として迎えられるのも当然のことであろう。

一兵たりとも海外に送らない 私たちの選択はこれ以外にありえない 兵士や軍隊をもってでなく、平和的手段であたる以外に解決は得られない。そうしない限り、永遠に戦争の悪循環を断ち切ることはできない。

### 3 派兵拒否は平和への道

今カンボジアに派遣されようとしている自衛隊員と家族の方々に訴えたい。

あらゆる手段をつくして派遣を断っていたきたい。憲法はあなた方の良心の自由を保証している。国民の多くがあなたやあなたの方や息子さんの出撃に反対している。第二次大戦後の戦犯裁判の判例も、非人間的 木当な上官の命令を拒否することは権利であるどころか、義務であると教えている。それでもあなた方は行くのだろうか？

あなた方もテレビを通じ、先遣隊の出動を見送る母や妻の類に流れ落ちる涙を見たのではなからうか？ 現行の自衛隊法においてすら、海外出動命令に従う義務はないのに、それでもやはり、あなた方は戦地におもむくのだろうか？

過去のどんな戦争でも最も大きい犠牲となったのは民衆であり、あなた方若い一

般兵士である。すでに現代の古典となった『わだつみのこえ』のなかに、たとえば「俺の子供はもう軍人にはしない、軍人にだけは・平和だ、平和の世界が一番だ」のような痛切な言葉が遺されている。この願い、この叫びも、ごく小規模な出兵「から始まった侵略戦争の行き着いた時点であげられた声だった。

国民が忘れてならない「この歴史的教訓と、戦前・戦中・戦後への深い反省から学んだ不戦の誓いを、あなた方が私たちとともに、『軍隊』の海外派兵に加わることなく、憲法に沿って世界平和へ真に貢献する道を私たちともども求めるよう熱望する。

1992年10月12日

日本戦没学生記念会（わだつみ会）